

## 令和元年度第3回山鹿市子ども子育て会議 会議録要旨

### 会議日程

令和元年11月12日（火曜日）午前10時00分開会

- 1 開会
- 2 「山鹿市子ども憲章」唱和
- 3 会長挨拶
- 4 議事
  - 1) 子ども子育て支援事業計画（第2期）素案について
- 5 その他
- 6 閉会

### 出席委員（14名）

伊藤良高委員	牛島美澄委員	小平善行委員	迎田浩二委員
木村ゆみ子委員	大森健司委員	星子都委員	松見美咲子委員
廣瀬卓三委員	菊川佐和子委員	田上明利委員	大坂高弘委員

### 欠席委員（5名）

田代桂一委員	藤森純也委員	谷吉オリエ委員	佐伯彰一委員
星子真貴委員	宮崎千也加委員	宇野木剛委員	

### 説明のため出席した者及び事務局職員出席者（7名）

教育部子ども課			
西村照彦課長	山下透審議員	原幸徳課長補佐	川上高博係長
清田緑専門員	永田浩樹主任	野見山和子主任保育士	

午前10時00分 開会

---

## 日程1 開会

### ○事務局司会

委員定数19名に対し出席委員12名であるため条例第5条第2項に規定された議事定足数の2分の1以上を満たしていることを宣言。

“あいさつ運動の一環として一同起立にて礼”

令和元年度第3回山鹿市子ども子育て会議の開会宣言。

---

## 日程2 「山鹿市子ども憲章」唱和

全員起立し、「山鹿市子ども憲章」唱和。

---

## 日程3 会長挨拶

### ○会長挨拶

第2期山鹿市子ども子育て支援事業計画の素案ができあがってきて、すでにご覧になっていると思うが、今後、パブリックコメントを実施していくことになり、本日の会議が、実質最終的な議論になり、委員各位の皆様にご挨拶したい旨。

11月1日に荒尾市で初めての小規模保育事業所を開園し、この1年間様々な取組をしてきた。今回の新制度で地域型保育事業所の中の事業の一つに小規模保育事業所があり、定員19人までの家庭的な保育の中で1人ひとりの子どもにきめ細かなサービスができるものであるが、小さな学校が経営運営できず、児童数が減ると統廃合の対象となるが、小さな園小さな学校が存続できる社会のほうが豊かな文化ではないかと改めて思っており、人口減少社会の中でどういう生き方をしていくのか、それぞれが考えることが必要ではないかと思うが、小さな園、小さな学校で少人数でやっていくことの大切さを少し考えていきたい気持ちになった、新しい動きがいろいろあるかと思うが、委員各位の皆様から様々な意見を伺いたい旨の挨拶。

---

## 日程4 議事

### ○議長

次第により、本日の議事の確認。

議事 1) 子ども子育て支援事業計画(第2期)素案について事務局から説明要求。

### ○事務局

山鹿市子ども子育て支援事業計画(第2期)素案の修正箇所を修正等一覧表により説明し修正等をお願いする旨。

続いて、第2期子ども子育て支援事業計画素案について説明。

3月に市民の子育て支援に関する生活実態やご要望・ご意見を把握するために実施した山鹿市子ども・子育て支援に関するニーズ調査や第1回目と第2回目の子ども子育て会議の意見、関係各課との会議等を踏まえ、また、第1期計画を踏襲し、継続して施策を推進していくものとして、第2期山鹿市子ども子育て支援事業計画の素案を作成、全体の構成につい

ても、第1期子ども子育て支援事業計画の構成から大きく変更はしていない旨説明。

本計画の基本理念を「子どもの笑顔がかがやき 安心して子育てできるまち山鹿」とし、本計画の構成及び記載内容を順に説明。

(6頁)人口・世帯の推移として、平成2年から平成27年の25年間で高齢者人口は、約1.5倍増加し、0歳から14歳までの年少人口は、約半数近く減少。また、年少人口は、今後、令和7年度までに1,000人程度減ると推計されている。(7ページ)ひとり親世帯は、15年間で500世帯以上増加している。出生数は、ここ5年間で相対的に減少している旨説明。(9頁から28頁に記載事項について説明)

(29頁から31頁)第1期の山鹿市子ども子育て支援事業計画の総括として、平成26年度から平成31年度までの計画期間で6つの主要施策の柱を立て計画の推進を図っており、子ども子育て会議において、審議いただいた結果を記載した旨説明。

(32頁から34頁)山鹿市の子ども子育て支援施策の課題として、本市の人口や世帯の動向、教育・保育施設や地域子ども・子育て支援事業の状況、ニーズ調査結果、第一期山鹿市子ども子育て支援事業計画の総括を踏まえ、子ども・子育て支援施策の課題を整理した結果を記載している旨説明。

(35頁から37頁)本計画の基本理念は、国の基本指針を踏まえ、本市が目指す都市将来像との整合を図る必要があること。子育ての第一義的な責任は、保護者にあることを前提として、保護者として自覚し成長することを地域全体で支援する必要があること、また、保護者が本市で子どもを産み育てることに生きがいを感じ、楽しみながら子育てができる環境づくりを進める必要があること。子育て家庭の支えとなり、社会全体が子育てを温かく応援する体制づくりを進めるため、家族、となり近所などの地域、行政、企業などが、それぞれの役割を果たす必要があること。に留意し、基本理念を「子どもの笑顔が輝き 安心して子育てできるまち山鹿」とした旨説明。

(38頁)基本目標については、基本理念のもと、本市の子ども・子育ての将来の姿を実現するため、3つの基本目標を定めた旨説明。

基本目標1 子どもが夢や希望をもって、すこやかに成長するための環境をつくります。

基本目標2 地域一人一人が子育てを温かく見守り支える体制を整えます。

基本目標3 喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します。

(39頁から42頁)主要施策の方向について、前回の会議において、委員の皆様から意見を伺い、一部修正し作成した旨説明。

(43頁から65頁)順次記載事項について説明し、議事1の説明終了。

#### ○議長

議事1)について、質疑に入る旨宣言。

#### ○委員

21ページの文章は、「・・・見込みがある」となっているがグラフは「・・・見込みはない」となっているため訂正の必要がある旨の意見。

#### ○事務局

訂正を行う旨回答。

#### ○委員

8 ページグラフ中「H 2 2 熊本県」となっているが、「H 2 7 熊本県」ではとの質疑。

1 9 ページ学童保育については、支援員の質も向上し、ハード面も充実してきていると思うが、特に事業の成果としてすべての学校において学童保育が開設したことと、高学年までの受入れが可能になったことなどの成果について、誇ってほしい旨の要望。

本市の教育・保育、子育て支援はインクルーシブ保育に重点を置いてと思うが、再来年には、山鹿市のほうに特別支援学校が開設されるが、計画の中には、「特別支援学校と連携します」と書いてあるが、地域の特別支援学校ということと、開設に伴い、より充実した施策もあるかと思うので、その点を重点的に記入してほしい旨の要望。

#### ○委員

計画中の膨大な事業を実施するには、費用の裏づけがないと空文化してしまうのではないか。そうならないためには、予算計画がないといけないと思うが、ここに記載がない理由を質疑。

#### ○事務局

本計画の事業等は、ほとんどが、各所管課において継続して実施している事業であるため、各所管課において、予算要求をしておるもの、新規事業等についても各所管課において予算要求するものである。また、本計画に事業として記載することで、予算確保の担保となるものとなるため、あえて予算を記載する必要はない旨回答。

#### ○委員

1 0 ページの一時保育の実施状況は、公立 2 園、私立 5 園となっているが、1 7 ページでは、公立 3 園、私立 6 園と違いに対する質疑。

#### ○事務局

確認後、整合性がとれるよう修正する旨回答。

#### ○委員

修正等一覧の修正後に「救急・夜間小児医療」の小児を削除してあるが、意図的に削除しているのか質疑。

#### ○事務局

修正一覧が間違いであり、「小児」は残す旨回答。

#### ○委員

学童保育の児童が増加しているという現状で、預かっている以上は、命を預かっている訳で、施設整備の不備も十分あると聞いている。これは、予算面や施設の広さの関係があり、単に学童が増えることが喜ばしいのかどうか。先日、孫たちの様子で水曜日に登校班で帰っているときに、「俺たちの遊びの時間だ」といって、家の前を通りすぎるころには、「今日はどこでどうする」といって声を出しながら帰っていて、子どもたちの自立的な行動の中に知恵とか考えが広がっていく部分があると思う。延長保育にしても 1 1 時間半という時間が、一人の子どもでいるのか、もしいるとしたら、家庭ではなにをするか。

親子の希薄さ、虐待等あるようだが、昔は、田んぼに行くにも赤ちゃんの時からかごに入れて連れて行って、手伝いという姿の中で成長してきていると思うが、近年、手伝いの様子も子どもたちの時間にはないように感じる。家庭から子どもを取り上げていいのか。予算面、施設整備、今後、子育てをどのように考えていくべきか？との発言。

## ○議長

指摘について、事務局で検討するよう要請。

## ○委員

女性の労働力率が山鹿市の50歳以上は、全国や熊本県平均より上回っており、祖父母の労働率が高いため、延長保育などとかに繋がっている旨の意見。

## ○委員

計画（素案）を見てよくできていると感じた。

- ・子ども子育て会議の対象年齢について
- ・子育て支援と子育て援助の違いについて
- ・すなっぴーは何のキャラクターについて
- ・挿入されているイラストの著作権について
- ・計画の中で、手厚く支援等をされているが、支援する側の保育士の労働条件とか、働き方改革という中で働きながら子育てをする保育士の労働条件など厳しいものではないか、その家庭は大丈夫なのかという質疑。

## ○事務局

子ども子育て会議の対象年齢は、0歳から18歳

支援と援助の違いは、支援は、手を差し伸べて助けるという意味で、その人自信でできるよう、必要な部分だけ支えることで、援助は、できないことを代わりにしてあげるといった意味で区別している。

すなっぴーの意味については、明るい未来を象徴するかのよう、空に向かってスクスクと伸びる「さやえんどう」が原型。真ん中の赤い丸は子ども達、その両側の黄色い丸は親や地域の人々を表している。安心感や温かさに包まれた環境の中で、子ども達が親や地域社会のたくさんの人々に見守られながら、健やかに成長してほしいという願いを込めている。また、さやえんどうの緑色は、子ども達を取り巻く家庭であり、地域社会であり、「山鹿市」そのものでもある。名前は、公募によりつけたもの。

保育士の労働条件は、厳しいものである。保育士の確保が難しい中で、子どもを見守る温かい眼差しが必要であることから山鹿市においても、保育補助として、保育士の資格がない方を雇用し、早出、遅出の時間差出勤で対応している旨回答。

## ○議長

すなっぴーの説明については、イラストのところに解説を差し込むよう要請。

## ○委員

計画の31ページに、外から見た虐待もしくは虐待の疑いのあるケースについて、記載してあるが、近年、家庭の中でしつけで、子どもを叩いたりしたケースでも虐待にあたるという流れになってきているため、その前の段階で家庭の中の父母等関わる人たちに教育等できればと思う旨意見。

## ○事務局

「要保護対策地域協議会実務担当者会議」は実際に起きてしまったケースに対して、県等と連携し、対応していくことになるが、それ以前に保健師や保育士などにより、養育支援や家庭訪問等で、子どもとの関わり方について話をしている状況である旨回答。

## ○議長

虐待については、民法の改正がなされたが、意識改革という意味でしょうけど、今の点については、これまで大切にしてきたところだと思うが、例えば、第1期計画の総括の記載のところで、「すくすく学級の実施」、「性や性感染症予防に関する正しい知識の普及」、「赤ちゃんが絵本と出会う『ブックスタート事業』」などの点でなされた施策が繋がって親になることを考えていく取組がなされている。

それらの施策で十分かどうか、現在の新しい動きも踏まえ、しっかりと取り組む必要があるところはしっかりとという提案であった旨の補足。

## ○委員

7ページのグラフで平成12年から平成27年にかけて、約500世帯と急激に増加している。ひとり親になると、家庭での子どもの教育に影響があり、仕事面や健康面等で子どもの教育がおろそかになり、保育園や幼稚園で教育もお願いしますという感じになるケースもある。親への礼節、友達への親切、うそをつかない、泥棒をしない等の倫理観がひとり親になったとたんに消え、保育園や幼稚園に負担がかかってくる。幼稚園等では、「その部分は家庭でやってほしい」家庭からは、「幼稚園でやってほしい」という考えがぶつかって、今社会教育としての道徳教育なのか、家庭としての道徳教育なのかという問題がでてくる。

子どもの教育には、言葉ではなくモデルが必要であると思う。

そのような背景があることを考えながら、子育て支援を考え、そこまでカバーするような会議が必要という意見。

## ○議長

子ども観、子育て像はいろいろなものがあるが、それをどうやって共通項としてとりまとめていくのか非常に難しいが、重要なところだと思う旨発言。

## ○委員

私自身、40年ぐらい子どもたちと接しているが、保護者も子どもたちも大分変化してきた。先日、ファミリーサポートの研修会に出席したが、社会福祉協議会ががんばっているのがわかった。計画素案の36ページの国の基本指針の中で「子育てとは本来、子どもに限りない愛情を注ぎ、その存在に感謝し、日々成長する子どもの姿に感謝し、親も親として成長していくという大きな喜びや生きがいをもたらす尊い営みです」この2行を読んで、涙し、これがすべてだと思った。この2行の言葉を自分に言い聞かせながら、この40年間やっていると。そして一生懸命がんばっている先生方や子ども課に感謝しながら子どもたちを見ていきたいと思う。また、親の方たちも、子どもたちに生きがいをもって育ててほしい。

こういった会議があったからこそ、学童保育が少しずつ充実してきており、本当に感謝している旨の意見。

## ○議長

第1期計画の総括については、最初述べたとおり。

その他、議論の必要性がある分について、今回、計画策定にあたり、アンケート調査を実施したと思うが、自由記述に本音の一部が記載されていると思うため、自由記述を再度読み、それがかなうものかどうか事務局で検証するよう要請。

私たちとしては、児童福祉法に掲げてある子どもの権利というものをベースとして子ども

の最善の利益がかなうような計画になるよう要望。

表紙裏面にすなっぴーのイラストがあるが、イラストだけでは意味がわからないため、解説が必要ではないかとの意見。

その他イラストが挿入されているが、なんとなく固定的なイメージが受け止められてしまう、例えば58ページを見てみると、固定的な家族のイメージが感じられるためイラストの選び方にも一工夫必要ではないかとの意見。

市長のごあいさつの中で「子どもを生み育てる」が「生み」となっているが、多くが「産み」を使っているためどちらかに統一したほうが良いとの意見。他にも、字句の不統一が見受けられる。「子ども」「一人ひとり」も統一を要するとの意見。

10ページ認可保育園や認可外保育園は施設名が記載されているが、「地域型保育事業所」は施設名が記載されていないため記載したほうが良いとの意見。

37ページ、基本理念は「子どもにとっての記述と子育て家庭にとっての記述」になっているが38ページ基本理念の後に、「親が子育てに生きがいを感じ、安心して子どもを産み育てることのできる温もりあるまちづくり」と子育て家庭についてのみの記載になっているため、「子どもが心身ともに健やかに笑顔が輝いて」等の文言が必要。例えば、「すべての子どもが毎日笑顔にあふれ将来に夢が育まれるよう」といった部分の記載が必要との意見。

本計画の策定年月日を最後に記載する必要がある旨の意見。

本日、それぞれの委員の考えが出ているが、それぞれのお考えが尊重される必要があるそれぞれの子ども、それぞれの子育て家庭、それぞれの地域等おかれている状況が違う。したがって、39ページからの具体的な施策が記載されているが、どこかに関係してくることが大事だと思う。例えば、長時間保育ですが、長時間保育がかならずしも悪いとは思っておらず、子どもの最善の利益にかなうことが一番ベストであるが、ワークライフバランスの関しての記載があり、働き方を見直す中で子育ての時間の確保というものができればと思う。しかしながら、一方で、すべての子どもが親によって育てられたほうが良いかどうかとも現実的な問題としてあり、社会的養護の必要性などの支援が必要な部分は支援をしていく。そういった全体的な所でどこかで重なって、縦の目と横の目がきちんとネットワークとして機能できれば良いと思うし、それぞれの施策を繋げていくその拠点がこの計画になるため、今回のご意見が非常に貴重なものであると思う旨の発言。

#### ○委員

計画（素案）が出来ていく過程にすごく勉強になった。

様々な価値観の人たちがおられるが、いろいろな人が生きやすいようになっていけば良いなと思う。子どもがたくさんの人たちの愛情を受けて育っていくのは大事だと思うし、子育ては、量より質が大事だと思うので、今後、お母さんたちを応援していきたいと思っている旨の発言。

#### ○委員

40ページ、福祉関係は、具体的な事業や施策が見えるが、例えば、主要施策3の「幼・保・小・中・高等学校の連携を推進し、子どもに関する様々な相談対応を行います。」とあり、記載してあることは、分かるが、何をやるの？という感じで、現実的にこのような会議はな

く、しても意味がない。果たして記載する必要があるのか。本来であれば、中学校区で幼・保・小・中連携会議を行っているため、それを具体的に記載したほうが、イメージできるし、中・高連携は別にあるため、別に記載したほうが良い旨の意見。

「下校時間帯や夜間の防犯パトロール・・・」は、具体的にやっているのか

「国際交流・・・」は国際交流とはなにを・・・

現実に山鹿市の予算が見える方法でやってほしい。

義務教育が終わる時期は社会的な自立をさせる必要がある段階で、子離れ、親離れできない生徒が多い。幼児期においてもゴールをイメージさせてほしい。そうしないと子離れできない親が増えていく。

「あいさつ」について地域からあいさつの声が小さいと言われるが、そもそも「あいさつ」は、学校や幼稚園が指導するものではなく、親のしつけの話で、これは、社会が間違っていて、全部あいさつは、学校の指導が悪いという論調になるが、もちろん学校もいろいろな場に応じたあいさつを職場体験等を通じて指導はするが、基本的に家庭のしつけの話で、そうしたものを子育ての中で、学校、保育園、家庭等それぞれで行う必要がある旨の発言。

#### ○議長

はみがきは、朝、昼、夜とみがきますが、学校でもみがくこともあり、そういう意味では、連携とか協働とかネットワーク等の大切さを言われたのだと思う旨の補足。

#### ○委員

33ページに「育児休業制度の取得状況をみると、母親45.4%、父親2.2%と男女での育児休業取得の差は依然として大きく・・・」とあるが、41ページの施策の中に具体的な記載は、男女共同参画という言葉で終わっているため、施策に繋がっていない旨の発言。

#### ○議長

この会議の中で、いろいろなデータが出てきて実現率を評価（A、B、C）しているが、そのように数値化できればということでは、素案そのものは、これで良いと思うが、施策を進めていく段階で具体的な数値化した進捗評価をする必要があるとの補足。

今回、カバーのデザインがないが、それはどのようにつくるのかという質疑。

#### ○事務局

全体的にカラーで印刷するが、表紙については、まだ決めていない旨の回答。

#### ○議長

表紙も含めて、手にとって読もうかなと思いたくなるような工夫をされたほうが良いのかなと思う旨の発言。

今回、ここに力入れたというポイントがあったほうが良いと思うが、自治体の特徴が求められており、山鹿市は5年間子ども・子育て支援でここに力を入れ、山鹿市で子育てをというには、売りがないと弱い所があり、出し方、示し方を工夫が必要。

幼児教育・保育の無償化の中で副食費の問題とか、食育の大切さが謳われているが、山鹿市の全小中学校で朝食サービスをするとか、そういううれしい提案があれば市民の方も楽しみにされるのではないかな等の要望。

また、今日いろいろ意見が出たため、事務局のほうで精査するよう要請。

#### ○事務局

今後のスケジュールについて、3枚目に綴っているスケジュールをにより説明。  
本日、委員の皆様からの意見を、計画に反映し、計画（案）とします、その計画案を教育委員会に説明し、パブリックコメントを実施。教育委員さんや市民の皆様からの意見（パブリックコメントのご意見）を計画に反映させ、再度1月下旬に委員の皆様にお示しする予定。その後、印刷製本の作業に入り、3月中旬の完成予定。その完成したものを3月下旬に委員の皆様にお配りする予定。以上、説明。

---

## **日程5 その他**

特になし。

---

## **日程6 閉会**

### **○事務局司会**

“閉会に先立ち一同起立にて礼”

令和元年度第3回山鹿市子ども子育て会議の開会宣言。